

新任 JICA 海外協力隊員 11 名に対する歓迎の言葉

今までお迎えした中で最も多い 11 名の JICA 海外協力隊員のマラウイ着任、大変嬉しく思います。「アフリカの温かい心」マラウイへようこそ。これから 2 年間、あるいは 3 ヶ月の短期の方もおられますが、マラウイ派遣が有意義なものになることを願っています。1971 年に JICA 海外協力隊のマラウイ派遣を開始し、今年は 55 年周年にあたります。マラウイは JICA 海外協力隊員の派遣累計数が世界で最も多い国です。来年には 2000 名の大台に乗る見通しであり、世界でマラウイが一番乗りとなるのを楽しみにしています。

数が最大というだけでなく、熱量も最大だと思います。天皇陛下が御臨席された昨年の青年海外協力隊発足 60 周年式典でも、世界中の元隊員のなかで、元マラウイ隊員が中心になってその熱気を牽引しました。

司会をつとめた J-Wave ラジオパーソナリティの長井優希乃さんも元マラウイ隊員です。先月友達の結婚式に出席するため「里帰り」され、大使館前の屋台で長井さんと一緒にシマを食べました。新たなネタ仕入れてラジオ番組の中で「今日のチェワ語」を発信され、電波を介して多くの日本の方々に前向きなパワーを届けています。

60 周年式典でマラウイ・ソングを盛り上げたのは、マラウイで掛け算ソングをつくって有名になったチコンディ・タナカこと田仲永和さんでした。田仲さんは今年、帰国隊員の中から選ばれる社会還元賞を受賞されました。千葉県君津市の教育センターに所属し、子供たちに郷土君津を誇りに思う SDGs 教育、「キミペディア」をつくる取り組み等が審査員特別賞として評価されました。マラウイで光っていた田仲さんの情熱、アイデア、行動力は、日本に戻られてからも輝きを増しています。

4 年前から開始された JICA 海外協力隊員帰国隊員社会還元賞は、毎年 5 – 6 人が受賞するのですが、皆さんの先輩である元マラウイ隊員は毎年受賞者に入っています。そして、今年 2 月にはなんと 2 人の元マラウイ隊員が受賞しています。

もうひとりの受賞者は北部ムズズに居住されているムスクワ野原さんです。私もムズズで PENJANI Malawi というビジネスを立ち上げた元隊員の野原さんにお会いしました。マラウイの良さを探して、引き出して世に届けるというコンセプトで、チテンジ製品、動物のぬいぐるみ等マラウイのお母さんたちと一緒に製作されています。マラウイ人の良さを引き出すという部分は、野原さんの隊員時代からの信念です。

彼女が何気なく述べた「人に善意で誠意をもって接すると回りまわって自分に幸せが戻っ

て来ることがありますが、マラウイはそうした幸せが頻繁に感じられる国です」との言葉は大変印象的でした。まさに野に咲く花のように逞しく前向きな方ですので、是非任期中に機会あれば訪ねて見て下さい。

私は赴任して7ヶ月ですが、マラウイ隊員の活動を各所で見させて頂き、その前向きなパワーにいつも感銘を受けています。多くの元隊員が、任期後もマラウイと関わって頂いているのは大変ありがたいことです。人的絆は日本・マラウイの最大のアセットです。

日本から離れ、便利な生活とは正反対の厳しい生活環境ですが、任地で各分野の技術とともに、人的関係を築いて頂ければと思います。皆さんの活動を通じて日本人のすばらしさを知って頂けるものと信じています。

今週、JICA食品・農産品加工分野のスタディーツアーに日本企業関係者6社がマラウイを訪問しています。25日(月)にビジネス・ネットワーキングイベントを大使館が主催しましたが、その際に、マラウイの外務大臣、商業大臣、農業大臣も出席されました。

同イベントにおいて、ローザ・ムビリズィ農業大臣は、中学生の時、JICA協力隊員としてボランティアに派遣されていた高橋先生に数学を習ったそうです。その時に教えてもらった歌、森山良子の「今日の日はさようなら」を、前に出て歌ってくれました。「いつまでも絶えることなく友達でいよう」という歌詞は、35年前に高橋先生がギターを弾きながら生徒に伝えたメッセージだということでした。

公邸にいた日本企業関係者は感銘を受け、ムビリズィ大臣と一緒に歌い、最後は合唱となりました。大臣は心の扉を開いて、奥底にある日本への親近感と尊敬の念を共有し、日本とマラウイの心が通じた瞬間でした。

皆さんが接する方々もきっと皆さんとの交流をきっと長く忘れることがないと思います。中にはローザ・ムビリズィ大臣のように、閣僚になって国づくりに大きく貢献する人が出て来るかもしれません。

ジーン・マタンガ・エネルギー大臣もJICA海外協力隊員に算数を学んだ一人です。中東情勢危機から燃料を国民に届ける大切な役割を果たしていますが、「今自分があるのは協力隊員のおかげだ」と心から感謝してくれています。これは決して社交辞令ではありません。日本の隊員と直接接触があったことを嬉しそうに誇らしげに話してくれています。

遠隔地の村で会話をしても、昔お世話になった隊員のお名前を口にします。隊員の活動を

通じた人の絆がこのように国中に浸透している国は、世界的にもそうない筈です。

これから皆様には、コミュニティの方々と喜びを分かち合い、あるいは一緒に涙も流す、心身ともに体当たりの生活に飛び込むことになります。

考えて工夫して、やれるところまでやったら、国民的ヒットソングが生まれ、世界だって動かすことができるかもしれないことを、先輩方がここマラウイで実証しています。楽しみながら、学びや共感を広めて頂ければと思います。

皆様それぞれのやり方で、この国の主人公であるマラウイの人々に寄り添い、その良さを引き出して頂けるものと信じています。

そして、皆さんが学ぶことも多くあると思います。帰国隊員にお話を聞くと、厳しい環境の中で、人生の中で本当に大切なことをマラウイの方々に教わったと言われる隊員が多く、経験は一生ものです。今後キャリアにとって有益であることは間違いありませんが、皆さんの人生の羅針盤にさえなるかもしれません。

在マラウイ日本国大使館は皆さんのご活躍を心から応援しています。安全と健康が最優先ですので、無理せず注意することを怠らずに身体を大切にしてください。困ったことがあれば、ボランティア調整員を通じてご相談下さい。大使館はいつでもサポートします。

任務開始にあたり、おひとりずつ小さなダルマをプレゼントします。よろしければ片目を入れて初心の目標などを念じ、そばに置いて頂ければと思います。そしてマラウイでの任務終了の際に、両手一杯の達成感とともに両目を入れて頂ければと思います。

(了)